

港区立青山中学校
令和6年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	・文学的文章、論理的文章、それぞれの特質を理解し、読み取りの手順を理解して、自分で文章を深く、効率的に読める能力を身に着ける。	・1年生は地道に学習に取り組んでいる。しかし、漢字や語彙など基本的な学力を持続的に身につけていくことが課題である。 ・2年生は、小説、短歌の読み取りや短歌の創作に意欲的に取り組み、読み取りの方法について理解し始めた。説明文の読み取りについて苦手意識をもつ生徒もいるので、説明文を効率的に読むスキルを身につけさせたい。 ・3年生は言語活動に関しては、意欲的に取り組んでいるが、記述式問題が課題である。	・【1年生】 毎時間漢字の小テストをするなどで、基礎力の育成を図る。また、授業中の課題が終わった生徒はワーク、漢字ワーク、スタディサプリなどで繰り返し基礎力を育成する問題をやるようにさせる。 ・【2年生】 説明文は内容を大づかみに捉えることが大事で、題名から全体の内容をつかんで、常にそれを意識しながら読むことが大切である。題名から内容をつかむ方法、構成を分析して丁寧に読むべきところをつかむ方法などを指導する。 ・【3年生】 理解していない生徒に対して、机間指導をこまめに行い、直接指導する機会を多く設ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ちグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。	・1学年は、地形や気候、そこでの人々の生活の様子などに興味を持っている生徒が多い。一方で基礎の定着や自然条件や社会条件を関連づけて理解することが課題である。 ・2学年は、基礎的な知識・技能が徐々に身についてきている一方で、社会的事象の共通点や相違点を見出し、自身の考えを説明することが苦手な生徒が多い。 ・3 学年は、基礎的な知識・技能が徐々に身についてきている。地理・歴史・公民を横断的に繋げて思考することができるようになってきている。その反面、考え方を比較・応用することが苦手であり、話し合いの場面で意見が広がらないことが課題である。	【1学年】反復学習を取り入れ、基礎的な知識・技能を養う。小学校の復讐や日常起こる出来事と関連付け身に付けた知識とつながりを持たせる。 【2学年】 ・单元ごとのまとまりを通した「問」を立て、一つの課題を迫及し各自が見解をまとめ、意見交換を行う。タブレットを活用した話し合い活動を通して、社会的な事象の原因や結果を分析できるようにする。 【3学年】 ・社会的な事象の横断的なつながりを意識させることで社会の仕組みを理解し、課題意識を持てるようにする。自ら【問】を立て、話し合い解決する力が付けられるようにする。

数 学	育成を目指す資質・能力	全国学力・学力状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・単元の基本となる事項を理解し、知識として確実に定着できる態度を育成する。 ・事象の変化や対応に関する特徴を見だし、図や表、式、グラフを相互的に関連付けて表現できる力を育成する。 ・理論的に考え、しっかりとした手順で他者に説明できる力を育成する。	・1年生は基本的な計算は授業の中で理解している。しかし、分数や少数を含む計算は、標準クラスでは正答できない生徒が減少していないことが課題である。 ・2年生では知識技能は定着しつつあるが、思考・判断・表現は苦手な生徒が多い。 ・3年生は全国学力調査・学習状況調査において、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の2観点で全国を上回っているが、東京を下回っていることが課題である。	・全学年に対して、日々の授業で、問題集を中心に演習を充実させる。その中で、教えあい活動を通して、協働的な学びへ向けた態度を育む。 ・全学年に対して、小テストなどで、各単元の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の定着を図っていく。 ・全学年に対して、習熟度別少人数授業を展開し、個に応じた指導を図り、ICTを使ってスタディサプリを活用して、自分で進度を計画させ、個別最適な学びを充実させる。

理 科	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・自然事象に対する基本的な概念や知識を理解するとともに、問題を見出す力や問題を批判的に思考し、主体的に課題を解決しようとする資質・能力を涵養したい。	・1年生は、実験技能や主体的に学ぶ態度が高まってきた。テストに向けて反復して暗記しようとする習慣が十分ではないので、その力が高まるようにしていく必要がある。 ・2年生も、実験技能が高まり主体的に学ぼうとする姿勢が高まってきた。テストの傾向から、思考力や表現力を必要とする問題の正答率が高くないので、基礎基本の定着で満足せずに、表現する力や応用する力まで高まるようにレポート等で表現するあるいは問題演習の時間を確保していく。 ・3年生は基本的な実験技能が定着している。ただし、課された課題が終了すると満足する生徒が多く、主体的に課題を探究していこうとする態度が十分ではない。自由進度学習や個別最適化された課題を与え、自ら主体的に取り組もうとする姿勢を高めていく。	<u>全学年</u> ・スタディサプリを授業内で十分に活用し、個別の課題に合わせて基礎基本の知識が定着するような授業を展開する。 ・実験の機会を十分に確保し、自然事象に関する興味関心を高めるとともに、授業の振り返りで自らの問いを設定するようにし、質疑応答を通して、疑問をもつ力を高める。 ・定期テスト以外に単元ごとの単元テストを設定し、学習事項を確認する機会を増やす。また ICTを活用し、解説動画等を作成することで、各自の課題にあわせた個別最適化された学習を展開できるように工夫する。 <u>2・3年生</u> ・授業の進度に余裕をもたせ、自ら課題を設定し学習に取り組める実験やレポート、受験に向けた問題演習に取り組む時間を確保する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・曲想と構造などとの関わり及び多様性について理解し、表現を工夫するための技能を身につける。 ・表現を創意工夫し、良さを味わって聴く。 ・主体的・協働的に取り組み、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を豊かにしていく態度を養う。	・1 年は、表現の工夫として、感じたことを、自分なりに言語や実技で表現しようとする態度がみられる。表現活動を積み重ね、技能の向上につなげるようにさせる。 ・2 年は、表現を工夫するにあたり、楽しんで協働学習しようとする良さがある。個々に感じたことを言語化する活動を通して、更なる音楽的表現力の向上に繋げるようにする。 ・3 年は、味わって聴こうとする態度があるので、より表現に結び付けることができるようにさせる。表現を工夫するにあたり、より曲想や構造などと深く結びつけて表現させるようにする。	全学年 ・音楽的表現に着目させるよう、曲の中で重要なポイントを示す。考え、表現させた後、更に良い表現となるよう、繰り返し生徒への投げかけを行う。 ・良さを味わって聴いたことについて、どのように伝えるか個々に考えさせるだけでなく、意見交換させ、考えを深めさせる。 ・合唱の際は、歌唱、合唱することそのものだけでなく、より深い表現を求めて考え、創る喜びを味わわせるようにする。教師からの提示、助言と生徒からの考え、表現を結び付け、より豊かな表現を求めさせる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	・表現と鑑賞を結びつける力を養っていくことで主体的に美術と向き合う姿勢が身につくような能力を高めていく。 ・自分の作る作品のテーマを他者に伝わる言葉で表現できる力を養っていく。 ・友達の作品や美術館で本物を鑑賞することで、多様な価値感を受け入れ、生活を豊かにしていく態度を養う。	・1年生は全体指導になると指導内容の理解量が下がる傾向にある。基本的な技法の定着の速度が遅い生徒がやや目立つ。 ・2年生は作りたいものがはっきりしている生徒が増えてきているが思いを表現に変えるまでのプロセスで何を鑑賞し理解したかの量で制作物に差が出てきている。 ・3年生は何を表現したいのか明確になってきているが、日常の中での美術に対する意識の違いや他教科の理解度や関心度の違いが制作に与える影響について感じている生徒とあまり意識していない生徒との差が制作物に出てきている。	・1学年は、グループワークを積極的に取り入れ友達と意見交換しものの見方の幅を広げ何を表現したいのかテーマを伝える発表の場を増やす。 ・2学年は、技法を知ることによって表現の幅が広がイメージを実現しやすくなるということを知らせる小さい技法ワークを取り入れていく。1つの制作物ごとに短い言葉でレポートする機会を増やす。 ・3学年は、美術館で本物を鑑賞するとともに生徒作品について美術館学芸員やプロの制作者の意見や感想も聞ける機会を作っていく。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
保健体育	・種目に応じた学び方や安全についての関心をもたせ、生涯にわたって、運動に親しむ資質や能力を育てる生徒の育成を目指す。 ・自分に適した課題を設定し、活動の方法を工夫しながら技術を身に付け、体力向上を図る。	・全学年において、新体力テストの結果では、男女ともに「持久力」、男子は「柔軟性」、女子は「ハンドボール投げ」に課題がある。 ・全学年において、運動の能力に差があるので、各単元において、自分の能力に合った目標を立てスモールステップで達成感を味わえるようにする。また、学びあいをする場面を授業に取り入れ、お互いに高めあえるような工夫をしていく。 ・全学年において、授業の学習内容が定期考査につながっていない生徒がいるため、実技と保健の授業の関連づけを意識して授業を行う。	・全学年において授業の導入で、課題となる体力を高められるような運動を取り入れていく。 ・全学年において授業の目標を明確に伝え、自分の目標を設定させる。また、授業後の振り返りを、学習カードを活用し行い、次の授業へつなげるようする。全学年においてグループ学習では、お互いに見るポイントを明確にしたり、タブレットで自分や仲間の姿を撮影したりし、具体的なアドバイスができるような工夫をする。 ・全学年において自己や仲間の課題を解決するためにどうすべきかを一方的に指導するのではなく、アドバイスをしながら、自分たちで考えさせる場面をつくる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
技術・家庭	・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に着ける。 ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど、課題を解決する力を養う。 ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	- 全学年 ・知識・理解を上げるために、ポイントをおさえた解説・指導にする。 ・技能については、机間巡視を増やし、課題解決にあたりアドバイスをしていく。 ・生徒間で作品の意見交換をする。 ・製作品が完成しないときは、放課後などの時間に製作する。	- 全学年 ・基礎的な理解を図るために、教科書、ワーク、期末考査を使い基礎的な理解を習得する。作品製作を通して技能を身につける。 ・生活や社会の中から技術や家庭に関わる問題を見いだして主体的に考えさせる。 ・構想した自分の考えを、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、自分の考えを伝え他者の考えを聞くことで評価・改善につなげる。 ・製作品の製作を通して、実践的態度を養う。

外国語(英語・国際)	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・意欲的に自分からコミュニケーションを図ろうとする。 ・自分の考えを正しく伝えたり、相手の考えを正しく聞き取ったりすることができる。	・1年生は、基礎基本の力が定着していなかった。会話をするに対しては抵抗なく意欲的に取り組むことができる。 ・既習文法を正しく使えていないことがある。 ・2年生は、会話活動に対しては消極的に感じる。ゲームなどの言語活動は、チームメートと協力して楽しく行うことができる。 ・並べかえ問題など、文法の力がまだ定着していない。 ・3年生は、今までの既習事項が定着されていない。 ・言語活動に対しては、意欲的に取り組んでいる。	・1年生は、既習の文法事項について何度も繰り返し学習したり、文法を使った活動を多く取り入れたりしていきたい。 ・活動のなかの正確さは、こまめに机間指導をすることで正していく。 ＜全学年に対して＞ ・作業が遅い生徒や理解していない生徒に対して、机間指導をこまめに行い、直接指導する機会を多く設ける。 ・言語活動を行ったあとに、文法事項の復習をするなど、繰り返しの学習を行う。 ・NTと会話する活動を多く取り入れる。 ・コミュニケーションをスムーズにとれるよう、毎回の授業の導入で会話活動を取り入れる。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・教材に触れ、自己の考えを深めたり、他社と考えを共有したりすることを通して、「自己肯定感」「自己有用感」「自他の理解と尊重」「共生社会」「人権教育」の考えを深める。 ・探究的な学習や体験活動などを通じ、「協働的な学び」の充実を図る。	・iPad の学びポケットを利用することにより、教材や課題に対する個々の考えを深めることができた。 ・3年生は、互いの意見を交換する時間に、活発に行えなかったときもあったので、意見を伝えやすい雰囲気や相手の考えを聞いて自分の考えを振り返ることができるようにしたい。 ・iPad への入力、生徒によって進み具合に差があり、すぐに自分の考えを表現できない生徒もいるので、与えられたテーマに対してすぐに自分の考えを表現できる力を身につけさせたい。	＜全学年に対して＞ ・授業の最初で、授業のねらいと授業の流れを説明し、今日の授業で何を学ぶのか、ねらいと流れを明確にしてから授業を行う。 ・授業の振り返りを必ず行い、1時間の授業で何を学んだのか、何を考えたのか、他者との関わりを通して自分がどのように変わったか、生徒の考えを整理して授業を進めていく。 ・ペアワークやグループワークを行う際に、テーマに沿った考えについて考えを深めることができるか、教師からヒントを与えつつ、めあてに向かってより良い意見を引き出せるようにしていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることを理解し、行動の仕方を身につける。集団生活や社会における生活及び人間関係をよりよく形成し、自己実現を図ろうとする態度を養う。	・全学年において、生徒の人数が少なく、各行事においては、一人の生徒が何役も取り組んでいることがある。 ・全学年において、生徒が主体的に取り組める場や人間関係を形成できる場が少ない。 ・全学年において、生徒が自己決定を行ったり、生き方について自覚を深めたりする場面が不十分である。	・全学年において学級活動では、班や係、当番活動の中で自己の役割を明確にし、リーダーだけでなく一人一人が責任をもち取り組む。 ・全学年において生徒会活動では、生徒会の一員という意識をもち中央委員会で話し合ったことなどを朝礼や学級で伝えるようにする。 ・全学年において学校行事では生徒主体に運営ができるよう実行委員を中心に計画を立てる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	・様々な物事に対してよりよく問題を解決するための知識・技能を身につけ、探究学習の良さを理解する。 ・身の回りの生活の中から“問い”を見だし課題設定する力。情報を集め整理・分析し、まとめ・表現する力を身につける。 ・探求的な学習に主体的、協動的に取り組み、互いの良さを生かしながら社会に参画しようとする態度を養う。	学年ごとのテーマである1年:「いろいろな生き方を知ろう」、2年:「多様な生き方に学ぼう」、3年:「自分の生き方を考えよう」に対して、テーマや内容項目を理解して、生徒の主体的な学習を促していくことが課題である。グループワークなどの話し合いの場面を通して、お互いの考えを共有させ、多様な考えを、受け入れていく機会を多く設定していくことが必要である。	・全学年において「課題設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」というプロセスを基本とする。 ・全学年において実際に学習活動や扱う学習対象と発揮される資質・能力を具体的に想定して、「探究学習」の材料を集めるようにする。 ・第1学年は職業講話を通して進路学習を行う。探求プログラム「ソーシャルチェンジ」を通して社会課題学習を行う。 第2学年は職場体験の事前事後学習を通してキャリア教育を行う。探求プログラム「インターン」を通して、進路学習を行う。 第3学年は修学旅行を通して事前事後学習を行い進路学習・キャリア教育・ボランティア活動を行う。探求プログラム「ザ・ビジョン」を通して、進路学習を行う。